

宇和島の人口の変化

1年3組 清家 亜美 1年3組 一柳愛佳理

1年3組 浜村 栞奈 1年3組 土居かのん

1年3組 真木 未生 1年3組 薬師神優菜

指導者 井上 真介・山下 佳世・西川いず美・小山 尊浩

1 課題設定の理由

私たちが住んでいる宇和島の人口は年々減少している。特に日本全体で問題となっている「少子高齢化」がここ宇和島でも進んでいる。そこで校区ごとの人口を年代別に調べ宇和島の人口の分布の様子を調べたいと考えた。そして、この結果から未来の宇和島を想像し住みやすく人が集まるにはどうしたらよいか研究したいと考え、この課題を設定した。

2 仮説

現在宇和島の中心である商店街も人口とともに活気がなくなっている。なぜ、このような状態になっているのか考えると、宇和島は働く場所が少なく給料も安い、収入が安定した生活や、充実した娯楽施設をもとめて都会へ出る人が増えていると考えられる。

3 調査の方法

(1) 町を調べる

<インタビュー項目(抜粋)>

- ・商店街の空き店舗数
- ・経営者と客の年齢層
- ・商店街の役割
- ・宇和島の活性化

(2) 人口を調べる

- ・宇和島の各中学校の生徒数の変化
- ・宇和島市の昔の人口
- ・宇和島市の現在の人口



写真1 きさいやロード入口



写真2 きさいやロード看板

4 結果と考察

(1) 商店街について

年を経るごとに、徐々に総店舗数は減少し、空き店舗率も非常に高くなっていると予想していたが、調査によると総店舗数は増加している時もあり、空き店舗数も予想していたほど高くはなかった。(表1参照)

(2) 人口について

2010年から2014年の5年間の各中学校の生徒数の変化をみると、5年間で平均16

人減少していた。また、人口ピラミッド(国立社会保障・人口問題研究所)で1980年のグラフと2015年のグラフを比べ、年齢別の人口の表から具体的な人口数を調べると、子供の人数は減少し高齢者の人数は増加していることがわかった。

表1 宇和島中心商店街空き店舗実態調査表 (宇和島商工会議所資料より)

調査日	総商店数	空き店舗数	空き店舗率(%)	非商店	駐車場空き地
平成27年	138	38	27.5	23	4
平成23年	136	35	25.7	26	3
平成19年	144	22	15.3	19	3

※商店数・空き店舗数は、事務所・2階以上の店舗・非商店（銀行・病院・ゲームセンター・コインショップ・タクシー・不動産等・駐車場等を除く）

5 まとめと今後の課題

私たちの住んでいる宇和島の人口は、約10年間で12,000人減り、平均年齢は3歳上がっている。65歳以上の割合は約8%上がっていて、0歳の子供の人数は約100人減っていることから出生率が減少していることが考えられる。

また、23歳～34歳の働いている若い世代が他の世代と比べて大きく減少していることから仕事を求めて宇和島を出ていることが推測できる。

かつて賑わっていた商店街では、現在宇和島を盛り上げるために様々なイベントを開催している。しかし、売り上げは思うように上がらず、宇和島を訪れる人もあまり増えていない。また、商業的な役割だった商店街は、人力車の導入や、狭い範囲に商店が密集していることを生かした買い物弱者への支援へと移り変わっていることが分かった。

これから予想されることは、小中学校が統合され、学校数が減り、ますます町に活気がなくなることだ。また、働く場所が少ないため、若い人も宇和島から出ていき、高齢者の割合も多くなるため、働き手が少なくなり、店舗数も減っていく。この現状を改善するためにも商店街などで行っている特産品を生かしたイベントを積極的に宇和島以外にも宣伝し、それをきっかけに宇和島に来てもらう。そして宇和島の良さを直接体験することで、訪れた人がまた訪れたいと感じることが必要だと思う。また、その魅力を他の人にも広めてもらうことで、宇和島にも目を向けてくれる人が増えたらよいと私たちは考える。

参考文献

- ・「宇和島市の人口ピラミッド」出典：国勢調査を独自集計【日本の地域別推計人口〈平成25年3月推計〉】（国立社会保障・人口問題研究所）〔1980〕〔2015〕
- ・「宇和島中心商店街空き店舗実態調査表」宇和島商工会議所資料より
- ・「宇和島の中学校の生徒数」学校教育サイトGaccomより
http://www.gaccomm.jp/search/p38/c203_public_js/